

呑川レポート 2014-9

多摩川のアユ遡上その2

先日(5/28)は「(呑川をきれいにするための)大田区との意見交換会」が、開かれました。



西蒲田地域の「悪臭問題」は、「高濃度酸素水」の実験が進められていたものの、住民にハッキリ判る効果は実感出来ず、我々にとってはイライラ感がありました。

でも、今回の報告で、都や大田区はじめ関連 3 区が加わった「呑川水質浄化対策研究会」が始動し、「根本対策」「暫定対策」が系統的に策定され、感動的でさえありました。今後の展開が大いに期待されます。

昨日(5/30)は、「おなづか小学校」の「呑川学習」が行われ、呑川を「水神橋」(雪が谷)から「太平橋」(西蒲田)まで歩きました。



子どもたちは、きれいな水が流れる上流から、自分たちの住む領域に来ると、水の色が黄変する変化を、きらきらする目で熱心に見ていました。



「仲之橋」付近では「ナマズ」に出逢いました。
小学校のウォークでは、初めての発見でした。
夜行性で、昼間は物陰にひっそり隠れているので、ナマズが見られたことはうれしい発見でした。

さて、前回(呑川レポート 2014-08)「多摩川のアユ遡上(その1)」の続きです。

「大潮・満潮」時は、「今シーズン最高」のアユの遡上があったのに、実際にアユの遡上を見ることが出来ませんでした。

一方、「干潮」時に行き直した時には、「堰」を一生懸命上がるアユの姿を確認出来ました。

こうなると、遡上数の多い「満潮」時の「アユの遡上」の姿をどうしても見たくありません。

3) 長潮・満潮時のアユ遡上

前回の「呑川レポート」で報告したように、「大潮・満潮」の時に期待して出掛けたのですが、多摩川の「調布堰」は「段差」が隠れ、そこを遡上するアユの姿は見ることが出来ませんでした。

そこで「大潮」でなく、「長潮」の時を狙うことにしました。

地球から見て、月と太陽が直角に近い位置にある時が「長潮」で、この時は潮の干満が小さく、満潮でも潮位はそんなに高く上がりません。



心をドキドキさせながら、多摩川に向かいます。
東横線の下に「調布堰」が見え始めました。



これが「長潮・満潮」時の流れで、期待した通り、堰の段差が隠れなかったのです。

段差が少し現れ、それなりに流れ落ちる水しぶきが立っています。

さて、ここを遡上するアユが見えるか、双眼鏡を使って観察します。



すると、時々、沸き立つように遡上するアユが見えるのです。

うれしさがこみ上げてきます。

「干潮」の時と違って、さすが「満潮」時は、遡上数が違います。



たくさんのアユが、水しぶきに翻弄されながらも、一生懸命
飛び上がっています。

水面下には、数 100 のアユが潜んでいるのかもしれません。

やはり「満潮」になると、押し寄せる数が格段に違います。

これこそが、見たかった光景で、なんども多摩川に来たかいがありました。



ただただ、やって来るアユの数に驚きます。
でも、よく見ると、段差の下のしぶきでもがいていて、しぶきの
上や段差近くで跳ねている姿は、ほとんど見られません。
あまりにも、激しい流れで、近づくことも出来ないように見えます。



これは厳しいなあ・・・と観察を続けていると、時折、数匹が
挑戦するように、波しぶきの先頭で強く跳ねます。



この個体は、段差直下で、勢いよく水面から飛び出しました。



そして、力強く段差の流れに、突っ込んでいったのです。
思わず拍手をしたくなりました。
こうして、果敢に、「段差」を乗り越えようとして遡上する
アユの姿をまのあたりにすると、こちらも元気をもらいます。



このアユは、ビックリするほどの大きなジャンプ、それを見上げるようにして見ている右下のアユは、「キミ、すごいなあ！」と感心しているように見えます。アユには、こんな大きなジャンプ力があるのですね。



こうして次々にジャンプし、段差越え・堰越えをするアユ・・・一方で、あえなく水面に落ちていくアユの姿も見られます。

でも、なんどもなんども果敢に挑戦していく姿を、まのあたりにして見ると、感動さえ覚えるのです。

ようやく、大量のアユの遡上を見ることが出来ました。何回も観察に足を運んだかいがありました。

私のそばで観察している方にお聞きしたら、「やはり、”長潮”より大潮・満潮の時に勝る遡上は無い」と言います。もう少し上流にお住まいの方で、今日はこちらに来てみたとのことでした。それぞれの場所で、それぞれの環境条件で、見つけやすい潮の満ち干の条件が違うのでしょう。調布堰のこの場所では、大潮・満潮では、まったく見られませんでした。

4) 遡上調査の人々

多摩川のアユの遡上調査は、行政の方もキチンと行っています。



これは、ずいぶん前、1998年に撮った写真ですが、多摩川に「定置網」が設置された時の様子です。

私が「川」に興味を持ったのは、1995年頃で、都市河川「呑川」を理解するには、まずは「自然河川」をキチンと知りたいたい、いくつもの自然豊かな川をめぐっていた頃です。

この頃は、「デジカメ」でなく、フィルムカメラによる「銀塩写真」で撮影を続けていました。

ですから、パソコンの画面上で探し出すことが出来なく、撮りためたプリント写真から、16年前の、この定置網写真を見つけ出すのにずいぶん時間が掛かりました。

この「定置網」は、私の記憶では「多摩川漁協」という旗が、そばでひらめいていたのを覚えています。

現在は、東京都の「島しょ農林水産総合センター」という部門で「定置網」を設置し、アユの遡上調査を行っています。

私は「川の生きもの」の姿を追うことも好きですが、川で働く方々や、行政で働く方々の姿を追うのも好きで、大いに勉強になります。そこで、アユ遡上の調査員の姿を追ってみることにしました。



「定置網」での調査をした後は、多摩川をゴムボートで遡上してやって来ます。



「調布堰」にやって来ると、船から降りました。
岸に降りないで、何をしよう…？



堰の桁に乗って、川をジッと見つめ、なにやらカチャカチャと手を動かしています。

目視で魚影を見て、手動のカウンターでアユの遡上数を計数しているのです。

こうして、「定置網」で 500 匹捕まった時、目視ではその 20 倍の 1 万匹を計数すれば、定置網での捕捉率は 5%ということになります。ですから、この場合、定置網で 1000 匹捕まれば、今日は 2 万匹遡上したと発表されるわけです。



「調査員」の方の様子を追っていると、堰の上での計数だけでなく、川に入って、たも網を振るい、魚を捕捉して調査も行っています。アユの他、遡上する魚の種類や、サイズなどを調べているようです。

お忙しいところ、ご迷惑とは思ったのですが、調査員の方に、アユのサイズを聞いてみました。

すると「5cm くらいが多い」とのこと、そんなに小さいとは夢にも思いませんでした。

朝日新聞での記事では「7cm くらい」とのことで、この報道も思ったより小さいサイズでした。

私が撮影したアユは、計ったわけで無いのですが、少なくともその 2 倍、10cm 以上が多い気がします。

しかし、こういう小さいサイズの話しを聞くと、私は「話し」や「行政のデータ」だけで受け入れるので無く、自分の力で、なんとかして確かめたくります。

そして、その小さいサイズのアユを、どうやって撮影するか……それに挑戦するのも楽しみです。



さかんに遡上するアユたち、その力強い姿は”いのち”そのものの躍動するパワーにあふれています。
また、新たな課題が浮上しました。5cm クラスの小さいアユの遡上の確認や、アユをめぐる野鳥たちの
状況を、少し時間をいただいて、次のレポートにしたいと思います。

(当面の日程)

2014/6/7(土) 「呑川悪臭ヒヤリング」 9:00 太平橋児童公園

2014/6/14(土) 「呑川の会・定例会」 13:30 蒲田小学校・会議室

2014/6/23(月) 久原小学校「呑川学習」 8:30 呑川の概要

2014/6/25(水) 「呑川ネット・定例会」 13:00 生活センター講座室

2014/6/26(木) 久原小学校「呑川ウォーク」 8:30 久原小から蒲田まで

2014/7/24(木) 「呑川の会・定例会」 10:00 洗足池図書館・多目的室

*6/26 の呑川ネット定例会は、久原小から呑川ウォークの要請があり、
急きよ 6/25 に変更しました。

また7/15 の呑川の会・定例会はみんなの都合により、7/24 に変更になりました。

——photo essay by——

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
